

# 鹿児島純心女子短期大学における 麻疹流行の予防対策(I)

有村 信子, 岩本 愛子

Preventive Measures Against Measles in Kagoshima Immaculate Heart College (I)

Nobuko Arimura and Aiko Iwamoto

---

2007年3月下旬から大学生に麻疹が流行し、本学においても様々な予防対策を講じた。まず、学生に対して麻疹を予防するため掲示物による広報、全学生の麻疹ワクチンの接種状況・健康状態の把握、短大に関係する2つの寮やキャリア支援課、保護者など学内・学外との連携、5月末からの学外実習生への指導、8月以降の学外実習生への抗体検査の実施と事後措置及び麻疹に対する学生の意識調査等を実施した。

その結果、全学生のうち麻疹ワクチンを接種した者が492名(79.5%)で国内の接種率と同じであった。また実習生の抗体検査のうち免疫獲得率が202名(91.0%)であった。ワクチン接種対象者20名のうち19名はワクチン既接種者であった。抗体検査を受けた学生の麻疹に対する意識では、「他人にうつり、すぐ広まる、こわい病気」と認識している者が多い傾向を示した。以上の内容を報告する。

**Key words:** [麻疹] [ワクチン接種] [健康観察] [抗体検査] [予防対策]

---

(Received September 18, 2007)

## はじめに

2007年の春から南関東を中心に流行していた麻疹は、関東全域に広がり関西、中国、九州とあっという間に西へと拡大してきた。今回の麻疹流行では成人麻疹(15歳以上)の罹患が多いことが特徴であった<sup>1)</sup>。厚生労働省の集計によると、全国の高校以上で麻疹による休校は、大学83校、短期大学8校、高等専門学校4校、高校73校であり、学年及び学級閉鎖は大学7校、短期大学0校、高等専門学校0校、高校37校であった<sup>2)</sup>。

学生の健康管理について、本学では学校保健法及び同法施行規則等に基づき定期健康診断の実施及び事後措置を徹底してきたところである。今回の麻疹の流行は、これまでにない広い地域や全国の動きを視野に入れた健康管理が求められ、今後の感染症対策も含めた健康管理の在り方を検討する必要がでてきた。

そこで、今回の麻疹流行に対する一連の対応をまとめて感染症への取り組みの課題を探り、今後の感染症の予防対策の参考にしたと考えた。

---

\* 鹿児島純心女子短期大学生活学科生活学専攻生活ウェルネスコース (〒890-8525 鹿児島市唐湊4丁目22番1号)

## 実践内容

### 1 麻疹に関する予防啓発

2007年3月下旬から関東地方を中心に流行していた麻疹は、4月に入ってさらに増加の傾向を示していた。養護コース等の講義でも取り上げていた中、文部科学省は厚生労働省からの麻疹についての注意喚起を受けて、平成19年5月14日付けでスポーツ・青少年局学校健康教育課から「麻疹の流行について」と題して、麻疹は学校において予防すべき伝染病であり、各大学で適切な対応をとるよう事務連絡が流された。短大では5月21日(月)に受付受理されて5月22日(火)に学生の健康管理担当者である筆者に届く。

#### (1) 麻疹の感染防止・啓発

本学では、早速5月22日(火)の下校時に合わせて、麻疹の予防啓発に関する掲示物(資料1参照:以下、資料1～資料11は最後にまとめて掲載する。)を作成して、学生掲示板及び学生ホールに掲示する。掲示物の内容は、麻疹の特徴、症状及び予防等について、発疹やコプリック斑のカラー写真入りとした。

5月23日(水)には、麻疹ワクチンの未接種の学生がいることを想定して、学校医へ連絡すると定期予防接種の委託医療機関でないことが分かる。そのため、鹿児島県医師会地域医療係、鹿児島県保健福祉部健康増進課及び鹿児島市保健所保健予防課から情報を得て「定期予防接種の委託医療機関一覧」等を入手して、学生掲示板に追加掲示する。

ただし、麻疹の唯一の予防方法であるワクチン接種<sup>3)</sup>を実施する場合は、医療機関への予約が必要であること、今回は定期の予防接種に該当しないため料金が医療機関によって異なることを把握した。この段階では、医療機関に麻疹ワクチンの在庫を確認している。

#### (2) 学外実習に行く学生への指導

5月23日(水)、5月末から学外実習に参加する学生への具体的な指導内容を作成して、実習委員会のメンバーである事務局長、教務委員長及び教務課長と内容確認の上、指導用の資料を作成する。その指導内容を実習担当の先生方へ「麻疹の流行に伴う実習生に対する指導について」(資料2参照)と題してメールを送る。

全教職員に対しては、麻疹の症状など掲示物(資料1参照)と同一内容のプリントを配布する。ただし、学外実習担当者及び担任へはカラープリントとした。また、5月24日(木)には、総務課を通して「麻疹の流行に注意!」と題して、実習担当者へメールした内容に国立感染症研究所感染症情報センターホームページを追加して全教職員へメール配信した。

### 2 麻疹に関する指導及び健康調査

#### (1) 全学生を対象に「麻疹に関する健康調査」の実施

5月25日(金)、鹿児島大学で女子学生が麻疹を発症したというニュースが流れる。5月26日(土)朝一番に教職員へのメール及び校内放送を通して、学生の健康管理上緊急を要する「麻疹に関する指導及び調査」の依頼を知らせる。その後、前述の指導及び調査の原案を作成し「緊急!麻疹に関する指導及び調査」(資料3参照)を教職員の先生方に配布して指導とアンケート調査の

回収を依頼する。

学生全員に対して「麻疹に関する健康調査」(資料4参照)の調査を行い、麻疹の予防接種の有無及び最近の健康状態や行動範囲(関東や関西への旅行等)のアンケート調査を実施して、同日回収・集計を行った。その結果、まずは5月28日(月)から学外実習に出かける学生の中に健康異常を訴える者は見当たらなかった。

## (2) 麻疹のワクチン接種の実態

「麻疹に関する健康調査」では、ワクチン接種について「接種済み」「未接種」「接種不明」「麻疹に罹患」の4項目で調査した。通常土曜日はほとんど講義がないが、26日(土)は聖母行列の行事が計画されており、欠席者等が見られた。そのため調査日において欠席及び接種不明の学生へのフォローが必要となり、5月28日(月)各クラスの看護委員を集めて、それらの該当者に渡すプリントを配布し本人が記入のうえ直接保健室に提出するよう伝達した。

この他に鹿兒島キャンパスで受講している鹿兒島純心女子大学のこども学科3・4年生についても、麻疹に関する健康調査を実施してもらうよう同大学へ依頼した。さらに、同大学院生も含めて「健康状態に異常のある者」、「医療機関でワクチン接種をした者」等については保健室に届けるよう掲示を行った。

ワクチン接種の確認ができなかった学生は、継続的に個人呼び出しを行った。最終的に麻疹のワクチン接種の実態は次のような結果になった(資料5参照)。全学生619名のうち麻疹ワクチンを接種した者は492名(79.5%)で、国内での麻疹ワクチン接種率80%程度<sup>4)</sup>と同じ傾向が見られた。「ワクチン未接種」の者及び「接種不明」の者は、計50名(8.1%)であった。

## 3 緊急時の対応

今回、流行している麻疹は、空気感染、飛沫感染及び接触感染と様々な感染経路があり、しかも麻疹の免疫がない人に感染した場合90%以上が発病するといわれ<sup>5)</sup>極めて感染力が強い。

麻疹の罹患者が出ていない現段階では、学生の健康状態及びワクチン接種の実態を把握し、未接種者へはワクチン接種を勧奨する等の対応をとっていた。今後は学生の健康観察を継続するとともに、麻疹の罹患者が発生した場合の危機管理をどのようにするか検討する必要が出てきた。

そこで、国立感染症研究所感染症情報センター、麻疹の罹患者が発生した大学、鹿兒島大学等のホームページで予防対策や学内における危機管理の情報収集を行った。5月29日(火)には、学生部長を委員長とした「鹿兒島純心女子短期大学 麻疹(はしか)対策委員会」(仮称)(資料6参照)を組織することとなった。さらに、学生が麻疹を発症した場合、学校保健法、同法施行令及び同法施行規則に基づき出席停止、臨時休業の措置、関係機関への報告及び発症者と接触した学生(濃厚接触者)への対応、学生の健康観察や保健指導等、今後の具体的な対応の確認や準備等を行った。

## 4 短大内外及び父母との連携

5月30日(水)には、英語科の1年生が入寮しているセントメリー寮や聖母寮にも「麻疹に関する指導及び調査」の資料を配付して、麻疹の感染防止及び早期発見に努めてもらうこととした。

また、鹿児島大学で麻疹を発症した学生は5月の連休中に関東地方を旅行していたことから、キャリア支援課にも協力をお願いした。具体的には県外等へ就職試験を受けに行く学生に対して、再度麻疹ワクチンの「未接種」、「接種不明」の学生にワクチン接種を呼びかけ、帰鹿したのち発熱や咳など麻疹が疑われる症状が出た場合は、速やかに保健室に届けるよう徹底した指導をお願いした。

6月2日(土)には父母懇談会があり、全体会の席上、麻疹の流行に伴い本学で実施している予防対策を説明した上で、父母の協力を依頼した。

- ① 鹿児島県保健福祉部、鹿児島県医師会及び鹿児島市保健所から情報収集を行って、
  - ・学生掲示板での麻疹注意を呼びかけワクチン接種の病院を紹介
  - ・全学生に対して麻疹のワクチン接種の調査、健康状態の調査、指導プリントの配布
  - ・セントメリー寮・聖母寮、キャリア支援課との連携等を行っていること。
- ② 鹿児島県教育委員会、鹿児島市教育委員会及び実習校と連絡を取って、
  - ・学外実習に参加している学生、これから実習に行く学生への指導を行っていること。
- ③ 麻疹の罹患者が発生した場合の緊急時の対応等全学的に対応していること。
- ④ 家族の協力を得てワクチン未接種者の接種勧奨と日々の健康チェックをお願いしたいこと。

## 5 6月4日(月)からの学外実習生への対応

さらに、6月4日(月)から食物栄養専攻の学生が出かける実習先の学校から「麻疹のワクチン接種の有無」と「学生の健康状況」について問い合わせがあり、「接種した人は母子手帳のコピーを持参すること」が専攻内で確認された。もちろん「未接種の人は接種してから実習に行く」ことも含めて、1週間遅れで教育実習等に参加する他コースも足並みを揃えることとした。「学生の健康状況」については、「麻疹に関する健康調査（健康観察）」(資料7参照)を作成して各科・専攻・コースに配布した。健康調査の結果、異常が見られる学生は必ず保健室に申し出るようにし、該当者には受診を勧め今後の健康管理について指導した。

これから養護実習に行く鹿児島市内の他の4つの小学校に対して、特に短大に求める麻疹の感染防止対策があるかどうか電話にて管理職に確認する。その結果、学校の対応には差があったが、これ以上の対応は必要ないとのことであった。また、電話確認の中で鹿児島市教育委員会から教育実習における麻疹への対応について指導がなされているとのこと、教育委員会へ資料送付を依頼して指導内容の確認を行った。実習生に対しては、毎朝の自己の健康観察が大切であり、できるだけ朝の検温を行い異常があった場合は、病院で診察を受け「異常なし」を確認のうえ実習に出かけるよう指導した。

## 6 抗体検査の実施

7月6日(金)に、文部科学省教職員課免許係から学外実習に参加する学生に対して、教育実習に参加する前に「麻疹の免疫を持っていると認められる者」であるかを確認するよう事務連絡のメールが流され、実習担当者から7日(土)に転送されたメールを9日(月)に確認する。その内容は以下の通りである。

- ① 今まで麻疹に罹患したことのある者
- ② 今まで麻疹に罹患したことのない者で、麻疹ワクチンの予防接種を受け、かつ抗体検査によって麻疹に対する免疫があると医師により認められた者とする。

さらに、教育実習に参加する学生が「麻疹の免疫を持っていると認められる者」であると判断するためには、抗体検査によって麻疹に対する免疫があると医師により認められた者とする主旨であった。

#### (1) 抗体検査の実施決定

文部科学省の指導を受けて本学では抗体検査をどのようにするか、急いで検討する必要が出てきた。そこで、他大学の抗体検査への取り組みを把握するため、各大学の対象者及び検査項目を調査した。その結果は以下の通りである。

- 鹿児島大学医学部・看護学部「麻疹・風疹・ムンプス（おたふくかぜ）・水痘」
- 鹿児島大学の上記以外の教育学部・工学部等の教育実習・介護等体験  
「平成19年度は、麻疹のみ。平成20年度からは麻疹・風疹の予定」
- 鹿児島純心女子大学こども学科「麻疹・風疹・ムンプス（おたふくかぜ）・水痘」
- 鹿児島純心女子大学健康栄養学科「施設から要請のあった所には麻疹の抗体検査の結果を持参させる。」
- 鹿児島女子短期大学食物栄養専攻科「施設から要請のあった所には麻疹の抗体検査の結果を持参させる。」
- 鹿児島県立短期大学の教職選択者の介護等体験「麻疹」
- 鹿児島県立短期大学食物栄養専攻の臨床実習「麻疹」

このような実態を踏まえて、本学では各実習担当者、主任、実習委員等の意見を聞き、学外実習に行く学生に対して抗体検査を実施する方向で、7月9日(月)起案し10日(火)学長決裁を受ける。抗体検査の対象者及び検査項目は以下の通りである。

- こども学専攻1・2年の保育所・幼稚園等実習「麻疹・風疹・ムンプス(おたふくかぜ)・水痘」
- 食物栄養専攻1・2年の保育所・病院等実習とインターンシップ「麻疹」
- 英語科・生活クリエイティブコース1年の教職選択者の介護等体験「麻疹」
- 養護コース2年の介護実習「麻疹」

この抗体検査を実施する検査機関の決定については、医療機関や検査機関等に問い合わせ料金、採血の際の条件、検査キットの在庫等を検討した結果、職員の健康診断実施機関である「鯉坂クリニック」にお願いすることとした。実施の際は、開始時間等十分な協力が得られスムーズに採血が行われた。

#### (2) 抗体検査の実施に伴う措置

学外実習に行く学生は、Lコース1名、英語科5名、養護コース33名、こども学専攻91名、食物栄養専攻95名、計225名である。7月11日(水)にこれらの学生及び保護者宛て「麻疹（はしか）の流行に伴う抗体検査について」（資料8参照）を配布し、抗体検査の対象者、期日、料金等を案内した。さらに、抗体検査を受ける場所について本学か他の医療機関かで選択肢を設けた。他の医療機関を利用する場合、抗体検査の結果提出、予防接種の該当者への指導も含めた内容とした。

また、学長決裁以降は、同時進行で実施機関、講義担当者及び時間割担当係との連絡・調整をしながら実施要項の作成を行った(資料9参照)。この実施要項は、7月10日・11日にわたって科長・専攻・コース主任、実習担当者及び講義担当者へ配布し、学生には学生掲示板を利用して広報を行った。

### (3) 抗体検査の結果

7月13日(金)に実施した抗体検査の結果が7月26日(木)に検査機関から届く。麻疹ウイルスへの抗体があるか否か(麻疹IgG抗体)を調べたこの抗体方法は、EIA法が用いられた。判定はEIA価が2.0未満を陰性(-)、2.0~3.9を擬陽性(±)、4.0以上を陽性(+)とし陰性と擬陽性の判定を受けた学生がワクチン接種の対象となった。抗体検査が陰性の場合、90%以上が麻疹に感染する<sup>5)</sup>といわれ、擬陽性の場合、予防接種などで獲得した免疫が弱く、今後自然に減少していくためワクチン接種が必要であり、陽性の場合、現在免疫があり麻疹を発症する恐れがないとされている。

7月27日(金)には、担任にプライバシーの保護等のもと一人一人の学生へ検査結果の配布をお願いする。また、実習担当者にも抗体検査の結果、予防接種が必要な学生を通知し該当する学生が学外実習が始まるまでに予防接種を受け、接種したことを実習担当の先生に連絡するよう指導してあることを知らせる。

学生への通知は、まず予防接種の必要がない学生に抗体検査の結果と予防接種が必要ないことを通知した。また麻疹の予防接種が必要な学生には、抗体検査の結果と予防接種が必要であること、予防接種を受けた後の連絡等について通知を行った(資料10参照)。

今回の麻疹の抗体検査の結果は、以下の通りであった(資料11参照)。対象者225名のうち3名はすでにワクチン接種を済ませていた。残り222名の学生のうち202名(91.0%)が陽性であり、一般に麻疹を予防するワクチン接種は、免疫獲得率が95%以上と高い傾向を示す<sup>1)</sup>といわれている。その他に陰性6名(2.7%)、擬陽性14名(6.3%)であった。この陰性と擬陽性の20名について、ワクチン接種の有無を調査するとワクチン接種19名(95.0%)、ワクチン接種不明1名(5.0%)であった。

ワクチンを接種しても免疫を獲得できない者が数%いること、麻疹発症者の減少によるブースター効果(免疫増強効果)を得る機会が少ないことからワクチン接種でいったん免疫を獲得した者の一部では免疫が減衰している場合があること<sup>1)</sup>から十分予想されたことである。

## 7 麻疹に対する学生の意識

今回、麻疹流行に伴い本学としては様々な予防対策を講じてきた。その対象である学生自身はこの麻疹対策についてどのように受けとめているのか調査をすることとした。

### (1) 対象者及び調査方法

対象者は、学外実習に参加するため抗体検査を受けた学生のうち3クラス126名である。

調査項目の選択肢は、調査対象以外の学生に麻疹に関する自由記述による予備調査で得られた5項目を選択肢とした。これら5項目について、「ほとんど思わない」「あまり思わない」「少し思う」「おおいに思う」の4段階で評定させ、「ほとんど思わない」から「おおいに思う」と回答した順に0, 1, 2, 3点と得点化した。

## (2) 意識調査の結果

麻疹は「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(平成11年4月1日施行)の対象となる感染症の一つである。また学校保健法等で学校において予防すべき伝染病の一つでもあり、麻疹は学生にとって無縁な存在ではないと思われる。

そこで、「子どもがいた場合、法律で決まった定期的予防接種を受けさせる」と回答した学生に、「予防接種を受けさせる時の不安はどんなものか」を問い、5つの選択肢のうち「思う」に当たる平均得点2.0以上の項目は「④副作用が起きないか不安(平均得点2.22)」「②注射器の使い回しがないか不安(平均得点2.03)」であった。これまで学生は、採血やインフルエンザ等の予防接種を経験している中、注射器の使い回しという現在ほとんど実施されていない誤った認識からくる不安があることが明らかになった。

2つ目に「麻疹は感染症(伝染病)の1つである。あなたは感染症(伝染病)と聞くとどんなイメージを持つか」の問いに、5つの選択肢のうち「思う」に当たる平均得点2.0以上の項目は「①他人にうつる(平均得点2.64)」「③すぐ広まる(平均得点2.35)」「④こわい病気(平均得点2.16)」であった。このことから感染症(伝染病)は、他人にうつってすぐ広まるこわい病気であると認識していることが明らかになった。18歳～20歳の学生は麻疹ワクチンを定期接種として受けている世代である。彼らはワクチン接種が予防に十分効果があり、流行抑制にとって重要であること<sup>6)</sup>を理解していないと思われる。

3つ目に「今回、このように麻疹が大流行したのはどうしてだと思うか」の問いに、5つの選択肢のうち「思う」に当たる平均得点2.0以上の項目は「④抗体が低下した(平均得点2.23)」「①予防接種を受けていない(平均得点2.06)」であった。現在、麻疹のワクチン接種率は全国で80%、地域によっては50～60%と低い状況<sup>4)</sup>で、流行を繰り返しているのが実情であり、これらの回答は十分予想されるものであった。

本調査の対象者は、近い将来母親となり麻疹の流行を大きく左右する存在となる。日本は麻疹の輸出国であると世界から指摘されている<sup>4)</sup>中、2006年6月から麻疹の2回接種制度が導入された。対象者である1歳児及び小学校就学前の子どもの実際、医療機関に連れて行く母親の協力がなければ接種率を95%以上にして流行を阻止することは不可能である。このことから、学生は麻疹に関して正しい知識を持ち単に感染症(伝染病)は、こわい病気であるとの認識から脱却して積極的な対処行動がとれるよう短大は情報提供の場になる必要があると考える。

資料1 学生掲示板及び学生ホールの掲示物

## 麻疹が流行していますので、ご注意ください。

特徴：発熱，粘膜の炎症症状，呼吸器症状，発疹を主徴とする感染力の強い全身性ウイルス感染症。一度罹ると終生免疫を獲得する。

原因：現在知られている病原体のなかで，最も感染力の強い麻疹ウイルスの飛沫感染により起きる。

症状：次のような症状が見られたら  
「すぐ病院を受診すること」  
もし，麻疹と診断されたら診断書をもって短大教務課へ提出すること。



A カタル期（3～4日）  
10～12日の潜伏期ののち，38～39℃台の発熱，咳，鼻汁，くしゃみ，結膜充血，眼脂を認め，次第にこれらの症状が強くなる。発熱3～4日目に頬粘膜にコプリック斑と呼ばれる赤みを伴った白い小斑点が出現する（写真）。コプリック斑は出現率90%以上であり，診断の決め手となる。伝染力はこの時期が最も強い。



B 発疹期（4～5日）  
発症後3～4日目にいったん解熱した後，再度高熱が出現し（二峰性発熱）持続する。同時に境界鮮明な斑状丘疹が出現して全身に広がる。この時期は咳，鼻汁，くしゃみ，結膜充血，眼やになどのカタル症状が強い。

C 回復期  
熱は下降し，カタル症状は漸減する。落屑や色素沈着を残して発疹は出現順序に消退し，発熱から7～9日で治癒する。

予防：①麻疹ワクチンの接種。ワクチンによる免疫獲得率は95%以上ある。

- ②人混みの中を出歩かないこと。
- ③基本的には手洗い・うがいをすること。
- ④微熱があるときは外出しないこと。



資料2 教育実習等の担当者へのメール

教育実習等の担当者の先生方へ

(5月末からの実習：教育実習・栄養教諭実習・幼稚園実習・介護等体験等の実習)

関東地方を中心に流行している「麻疹（はしか）」につきまして、当短大では昨日5/22、学生掲示板及び学生ホールの掲示板に「麻疹（はしか）要注意！」の掲示をしたところです。しかし、本日5/23文部科学省からの通知を受けまして、実習対象の学生へ以下のとおりご指導をお願いいたします。

<文部科学省教職員課免許係からの通知>

- ①麻疹に罹患している学生については、完治するまで教育実習等に参加させない。
- ②麻疹に罹患したことがないワクチン未接種の学生や免疫がない学生については、教育実習等前に予防接種を受けるように指導する。

<補足>

- ①実習生に対して、湿疹・発熱等の麻疹症状が見られないか健康観察を行うこと。また、友人等が麻疹にかかった場合、10日～12日の潜伏期間があるので、その間は自己管理をすること。
- ②湿疹・発熱等の麻疹症状が見られる学生は病院受診すること。麻疹の診断が出たら診断書を書いてもらうこと。（診断書は後日公欠願いの時必要になります。）
- ③麻疹のワクチン（予防）接種を受けたかどうかの確認をすること。本人が把握していないときは、親に接種の有無を確認するように指導すること。
- ④「麻疹に罹患したことがないワクチン未接種の学生」は予防接種を受けること。

<医療機関>

- ①鹿児島市内については「定期予防接種委託医療機関」の一覧を学生掲示板に掲示する。電話予約をして接種に行くこと。
- ②鹿児島市以外は、各市町村の保健担当部署に問い合わせ、該当する医療機関に電話予約をして接種に行くこと。
- ③鹿児島市内及び鹿児島市以外ともに、近くの小児科及び内科に電話をして、麻疹の予防接種ができるかどうか確認すること。接種可能な場合は、電話予約をして行くこと。
- ④病院の医師が抗体価検査の結果でワクチン接種を行う場合がある。その時は医師の指示に従うこと。
- ⑤費用はすべて自己負担である。ワクチン接種及び抗体価検査は、高額のため金額を確認すること。

<参考資料> 学生掲示板に張り出した資料を添付してあります。

☆麻疹及び感染症に関するお問い合わせは、619（有村）または618（岩本）まで、お願いいたします。

☆5月23日（水）5限目の教員採用試験説明会に参加した学生には、簡単に説明をしてあります。

学生健康管理担当

資料3 学生への指導及び調査依頼

## 緊急！ 麻疹に関する指導及び調査

2007.5.26

教職員の先生方へお願い

現在、流行している「麻疹（はしか）」が西日本にも広がり、鹿児島大学でも感染者が発生いたしました。つきまして、本日の聖母行列終了後、クラスアセンブリーにて感想文を記入したのち、麻疹に関する指導及び調査をお願いしたいと存じます。緊急で申し訳ございませんが、ご協力くださいますようお願いいたします。

<封筒の内容>

- 先生方への説明資料2枚綴り
- 学生への配付資料「麻疹が流行していますので、ご注意ください。」
- 学生へのアンケート調査用紙（回収）

<調査項目>

1 麻疹の予防接種等について

- ①予防接種を受けた人
- ②予防接種を受けていない人
- ③受けたかどうか分からない人
- ④予防接種を受けていないが、すでに麻疹にかかった人

<担任>

- ②・③の学生には、親に確認の上予防接種を受けるようにご指導ください。
- 封筒の表紙に貼付してある名票の「欠席欄」：本日欠席した学生に斜線を引いてください。
  - ①～④の欄は集計欄ですので、記入しないでください。

2 最近の健康状態や行動範囲等について

- ①学生に対して、現在、発熱・湿疹等の麻疹症状が見られないか健康観察を行うこと。

<担任>本日、発熱や体調の悪い学生がいましたら、必ず保健室に行くようご指導ください。

- ②自分の周囲で、麻疹に感染している人がいないか。
- ③学生自身、4月末から関東・関西方面に旅行や就職試験に出かけた人はいないか。
- ④4月末からこれまで関東・関西方面から帰省した人と接触した人はいないか。

<担任>②、③、④の学生に対して、麻疹の潜伏期間が10日～12日ありますので、その期間は十分な健康観察を行うことをご指導ください。

<指導内容> 5/24 朝のメール内容です。再度ご指導ください。

- ①学生に対して、湿疹・発熱等の麻疹症状が見られないか自己観察を行うこと。もし、友人等が麻疹にかかった場合、10日～12日の潜伏期間があるので、その間自分で観察を行うこと。
- ②湿疹・発熱等の麻疹症状が見られる学生は、病院受診すること。麻疹の診断が出たら診断書を書いてもらうこと。(診断書は後日公欠願いの時に必要となります。)
- ③麻疹のワクチン(予防)接種を受けていない人は、予防接種を受けること。(本人が分からないときは、親に接種の有無を確認するように指導すること。)

※教育実習担当の先生方へは、昨日 5/23 メールした内容でご指導をお願いいたします。

<医療機関>

- ①鹿児島市内については「定期予防接種委託医療機関」の一覧を学生掲示版に掲示してある。電話予約をしてから接種に行くこと。
- ②鹿児島市以外は、各市町村の保健担当部署に問い合わせのうえ、該当する医療機関に電話予約をしてから接種に行くこと。
- ③鹿児島市内及び鹿児島市以外ともに、近くの小児科及び内科等に電話をして、麻疹の予防接種ができるかどうか確認すること。接種可能な場合は、電話予約をしてから接種に行くこと。
- ④病院の医師が抗体価検査の結果でワクチン接種を行う場合がある。その時は医師の指示に従うこと。
- ⑤費用はすべて自己負担であること。ワクチン接種及び抗体価検査は、高額のため金額を確認すること。

<参考資料>

- 掲示板及び学生ホールの掲示板に「麻疹(はしか)要注意!」の掲示(5/22)
- 麻疹(はしか)の特徴や症状等に関する資料配布(5/23)
- 麻疹に関する情報は、厚生労働省HPや国立感染症研究所感染症情報センターHP等
- 麻疹等の感染症に関するお問い合わせは、内線619有村・618岩本まで

提出物：学生へのアンケート用紙

提出期日：本日アセンブリー終了後速やかにお願いいたします。

提出先：有村のメールボックス

学生及び教職員健康管理担当

資料4 学生への健康調査

麻疹に関する健康調査

2007.5.26

科 専攻 コース 番号 氏名

現在、流行している「麻疹（はしか）」が西日本にも広がり、鹿児島大学でも感染者が発生しました。そこで、みなさんの麻疹の予防接種及び健康に関する調査を行い、短大でも適切な対策を行いたいと思いますので、調査にご協力ください。

1 麻疹の予防接種について、おたずねします。①～④に該当するものに○印を付けてください。

- ①予防接種を受けた ( )
- ②予防接種を受けていない ( )
- ③受けたかどうか分からない ( )
- ④予防接種を受けていないが、すでに麻疹にかかった ( )

2 最近の健康状態や行動範囲等について、おたずねします。①～④に該当するものに○印を付けてください。

- ①現在、発熱・湿疹等の麻疹症状が見られる。( )
- ②自分の周囲で、麻疹に感染している人がいる。( )
- ③自分自身、4月末から関東・関西方面に旅行や就職試験に出かけた。( )
- ④4月末からこれまで関東・関西方面から帰省した人と接触した。( )

資料5

麻疹の予防接種状況

人数

	対象者	接種	未接種	不明	罹患	合計
G1A	27	19	2	2	4	27
G1B	28	20	1	3	4	28
L1A	21	11	1	1	8	21
L1B	21	18	0	0	5(2)	23
W1A	18	14	0	0	4	18
C1A	44	37	0	0	8(1)	45
S1A	46	37	1	1	8(1)	47
E1A	24	14	5	2	3	24
E1B	24	17	1	3	3	24
E1C	21	17	3	0	1	21
1年合計	274	204	14	12	48(4)	278
K2A	44	34	2	2	6	44
K2B	44	39	1	0	4	44
A2A	27	22	2	0	3	27
Y2A	33	29	0	1	3	33
N2A	23	12	2	5	5(1)	24
C2A	47	46	0	0	1	47
S2A	49	43	0	0	6	49
E2A	31	26	2	0	3	31
E2B	31	25	5	0	1	31
E2C	16	12	0	2	2	16
2年合計	345	288	14	10	34(1)	346
全学年合計	619	492	28	22	82(5)	624

罹患数 ( ) はワクチン接種後に罹患した者の再掲

資料6 対策委員会

鹿児島純心女子短期大学 麻疹（はしか）対策委員会（仮称）

2007/5/29

1 委員会は、学生部長を委員長として、次に掲げる委員をもって組織する。

○委員会委員長

学長	○学生部長
副学長	教務委員長
生活学科・英語科各科長	保健管理担当者
事務局長	総務課長
	教務課長

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員会は、次に掲げる事項について検討する。

- 1) マニュアル等の資料作成に関すること
- 2) 感染症の対処方針の決定及び実施に関すること
- 3) その他危機管理に関し実施が必要な事項

資料7 実習生の健康調査

麻疹に関する健康調査（健康観察）

2007/5/30

養護コース 2年 番 氏名 \_\_\_\_\_

来週からの実習をひかえて、あなたの健康状態についておたずねします。次の①～⑧に該当する症状がありましたら「有」を○で囲んでください。

また、その症状がいつから見られたかも記入してください。

記入日（ 月 日（ ））

- |       |               |        |                                  |
|-------|---------------|--------|----------------------------------|
| ①発熱   | 無 ・ 有（ 月 日から） | ⑥のどの痛み | 無 ・ 有（ 月 日から）                    |
| ②発疹   | 無 ・ 有（ 月 日から） | ⑦結膜充血  | 無 ・ 有（ 月 日から）                    |
| ③鼻水   | 無 ・ 有（ 月 日から） | ⑧目やに   | 無 ・ 有（ 月 日から）                    |
| ④くしゃみ | 無 ・ 有（ 月 日から） | ⑨その他   | ①～⑧以外に症状がある場合は、<br>具体的に記入してください。 |
| ⑤咳    | 無 ・ 有（ 月 日から） |        |                                  |

（ ）

※ 「有」に○印をつけた人は、必ず保健室へ申し出てください。

※ 現在、病院にかかっている人は病院名を記入してください。

（病院名 \_\_\_\_\_）

鹿児島純心女子短期大学 保健室

資料8 抗体検査のお知らせ

平成19年7月11日

学外実習に参加する学生及び保護者の皆様へ

鹿児島純心女子短期大学  
学 長 稲井 道子

麻疹（はしか）の流行に伴う抗体検査について

すでに、報道等でご承知のとおり、関東地方を中心に全国で麻疹が流行しており、大学生等において感染の広がりがみられています。

そこで、本学では、学生が保育所や病院等の学外実習を行うに当たり、それぞれの実習施設で麻疹やその他の感染症の拡大防止を図る必要があると考えております。もし、感染症に罹患した場合は実習に参加できなくなります。感染症への予防対策は、自分自身の健康を守るとともに、子どもたちや患者様の健康を守ることもつながります。

つきましては、学外実習を行うに当たり、下記の要項で抗体検査及び予防接種を早期に行うようお願いいたします。なお、実習に参加する場合は、この抗体検査及び予防接種が必要になりますので、申し添えます。

記

- 1 抗体検査の対象者：学外実習の参加者全員
- 2 抗体検査の内容：麻疹
- 3 実施場所：鹿児島純心女子短期大学内
- 4 実施期日：7月18日(水) 午前
- 5 料金：1,300円程度 料金の支払いについては、後日お知らせいたします。
- 6 抗体価が基準値以下の場合：個人宛に予防接種の案内を差し上げます。

※他の医療機関を希望する場合は、その旨実習担当者に申し出てください。各医療機関によって、検査料金が異なります。各自で病院に電話をして検査料金（約10,000円）を確認してから受診すること。

※他の医療機関で実施した場合は、実習担当教員に抗体検査結果のコピーを1部（原本は各自で保管）提出すること。

※抗体価が基準値以下の場合、予防接種を受け、予防接種証明書を提出すること。

----- キ リ ト リ 線 -----

養護コース 2年 番 氏名

どちらかに○印を付けて、7月 日 ( ) までに担任へ提出してください。

- 1 短大で実施する ( )
- 2 個人で実施する ( )

## 資料9 抗体検査の実施要項

科長・専攻・コース主任用

( ) 先生

学生が保育所や病院等の学外実習を行うにあたり、厚生労働省九州厚生局及び文部科学省教職員課から麻疹の感染防止の措置を講じるよう通知等があり、本学においては抗体検査を下記の通り実施することになりました。

つきましては、別紙を担任等を通して学生に配布いたしますので、ご参考までにお届けいたします。

## 記

1 実施日：7月18日(水) 8：30～10：50

2 実施場所：27-217室 (看護学実習室)

3 採血の順番

時間	クラス	人数	講義名	講義担当	教室	抗体検査項目
8：30～	E1C	5				麻疹
	L1B	1				麻疹
	S2A	49	調理学実習Ⅲ	大 富	1-101	麻疹
9：00～	S1A	46	解剖学	口 岩	2-308	麻疹
9：30～	C2A	47	発達と衣服	西之園	1-503	麻疹・風疹 ムンプス・水痘
10：00～	C1A	44	からだを動かす遊びⅠ	江 籠	体育館	麻疹・風疹 ムンプス・水痘
10：30～	Y2A	33	養護概説Ⅲ	有 村	27-303	麻疹

4 その他

- 1) 採血に当たり、朝食は摂っても支障ありません。
- 2) 採血後は針口をしっかり押さえること。(もまないこと)
- 3) 検査結果は、7月27日(金)までにお知らせする予定です。

2007/7/10 学生健康管理担当

資料10

麻疹のワクチン接種対象者へ

H19.7.27

麻疹の抗体検査結果について (通知)

鹿児島純心女子短期大学 保健室

7月18日(水)に実施いたしました抗体検査の結果は別紙の通りです。麻疹の予防接種が必要です。学外実習が始まるまでに予防接種を受け、予防接種を受けたことを実習担当の先生に連絡してください。また、下記の「予防接種証明書」を後期開講後9月21日(金)までに保健室へ提出してください。

なお、事前に病院へ予防接種の予約と料金の確認を行ってください。

.....き.....り.....と.....り.....

クラス： \_\_\_\_\_ 学年： \_\_\_\_\_ 番号： \_\_\_\_\_

平成 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

## 予防接種証明書

鹿児島純心女子短期大学長 殿

氏名： \_\_\_\_\_

上記の者は、麻疹の予防接種を行ったことを証明します。

医療機関名 \_\_\_\_\_

医師名 \_\_\_\_\_ 印



## 資料11

## 麻疹の抗体検査結果

人数

	対象者	採血		結果			ワクチン 接種
		学内	学外	(-)	(±)	(+)	
L1B	1	1	0			1	
C1A	44	43	0		2	41	1
S1A	46	45	1		3	43	
E1C	5	5	0		2	3	
Y2A	33	28	5	3	2	28	
C2A	47	44	3	2	2	43	
S2A	49	47	0	1	3	43	2
計	225	213	9	6	14	202	3

判定基準 (IgG-EIA法) (-) 2.0未満 (±) 2.0～3.9 (+) 4.0以上

## まとめ

今回の麻疹の流行に対して、本学の対応をまとめると、以下のようになる。

- 1) 麻疹に関する予防啓発では、カラー写真入りの掲示物及び定期予防接種の委託医療機関一覧を掲示した。また学外実習に行く学生へは、実習担当者を通して健康観察の実施や予防接種の勧奨を行った。
- 2) 全学生を対象に麻疹に関する指導及び健康調査を実施した。麻疹のワクチン接種では全学生619名のうち492名(79.5%)が麻疹ワクチンを接種しており、国内での麻疹ワクチン接種率80%と同じ傾向であった。
- 3) 麻疹の罹患者が発生した場合、緊急に対応できるよう「鹿児島純心女子短期大学 麻疹(はしか)対策委員会」(仮称)を組織した。
- 4) セントメリー寮、聖母寮、キャリア支援課及び父母との連携を図った。
- 5) 6月4日(月)からの学外実習生には、麻疹のワクチン接種の証明、麻疹の初期症状がないか健康チェック、朝の検温等を指導した。
- 6) 文部科学省の指導により7月末から学外実習に行く学生全員に抗体検査を実施した。対象者222名のうち202名(91.0%)が抗体陽性であった。
- 7) 抗体検査を受けた学生を対象に麻疹に対する学生の意識調査を行った。「予防接種を子どもに受けさせる時の不安」は「副作用が起きないか不安」「注射器の使い回しがないか不安」が強かった。「感染症(伝染病)についてどんなイメージを持つか」では「他人にうつる」「すぐ広まる」「こわい病気」という認識が高かった。

本研究は、2007年4月以降の麻疹流行への対応をまとめて、今後の感染症対策の参考にするものである。

学校保健法によると感染症に罹患した人に対しては、通常、他の人への感染防止や本人の休養目的で出席停止や休校措置をとっている。この精神に基づき実習校の児童生徒への感染防止のため、本学では先述のような対策をとってきたところである。幸い今回は麻疹の罹患者が出なかった。しかし、例年は麻疹の罹患者が5月をピークに減少し8月には麻疹の患者が発生しないが、今年は福岡などで患者が引き続き出ており、秋に麻疹の流行が止まらないときは来年以降も流行が繰り返されると国立感染症研究所は警告している。

今回は成人麻疹(15歳以上)の罹患が多かったこと、厚生労働省がワクチン接種が本当に必要な人を見極めるよう通知したこと、7月以降文部科学省が実習生へ抗体検査による免疫の確認を求めたこと等から抗体検査のキット不足やワクチンそのものの不足が相次いで混乱を招いた。厚生労働省は、10代、20代の麻疹流行を受け20年度から13歳と18歳に予防接種法に基づく麻疹ワクチンの追加接種を決定した。20年度の在学学生である19・20年度入学生の学生は、この恩恵に与っておらず免疫を獲得していない者、免疫が減衰している者がいること、さらに学外実習に行く学生の抗体検査の時期、教職員の抗体検査の実施をどうするかなど様々な問題がある。しかし、本年度の対策を基本に全学で協力しながら学生の健康意識を高めて一つ一つ対応していくことで麻疹を含めた感染症の予防ができると考える。

## 引用文献

- 1) 国立感染症研究所 感染症情報センター 麻疹発生データベース
- 2) 厚生労働省健康局結核感染症課 平成19年7月27日「麻疹及び成人麻疹施設別発生状況」
- 3) 国立感染症研究所 感染症情報センター 麻疹Q&A
- 4) 国立感染症研究所 感染症情報センター 予防接種の話「麻疹」
- 5) 国立感染症研究所 感染症情報センター 麻疹Q&A
- 6) 国立感染症研究所 感染症情報センター 2005年度感染症流行予測調査報告書 P.146

## 参考文献

- 1) 国立感染症研究所 感染症情報センター 麻疹発生データベース
- 2) 国立感染症研究所 感染症情報センター 感染症発生動向調査
- 3) 国立感染症研究所 感染症情報センター 麻疹Q&A
- 4) 国立感染症研究所 感染症情報センター 感染症の話
- 5) 国立感染症研究所 感染症情報センター 2005年度感染症流行予測調査報告書
- 6) John Playfair著・入村達郎訳:感染と免疫, 東京化学同人, 2006
- 7) 吉田美智子・藤井基博, 感染対策マニュアル, 医学書院, 2006

